

＊中学生「税についての作文コンテスト」受賞者を紹介！

全国納税貯蓄組合連合会が主催する平成22年度中学生の「税についての作文」に、市内各中学校から462編の応募がありました。審査の結果13人の方が入選し、昨年12月に表彰を受けました。入選作品は次のとおりです（順不同）
納税課 田（☎460 - 9831）

- <西東京市長賞>
「暮らしを支える税金」
明保中3年・高橋 菜月さん
- <西東京市教育委員会教育長賞>
「税の役割」
柳沢中3年・横山 翔吾さん
- <西東京市租税教育推進協議会会長賞>
「私たちの生活と税金の関わり」
保谷中3年・岡田 麻佑さん
- <東村山税務署長賞>
「今、私達に出来ること」
ひばりが丘中3年・高須 さくらさん
- <東京都立川都税事務所長賞>
「公共事業と税金」
田無四中3年・小林 純也さん
- <東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞>
「国民の思い」
田無二中3年・石橋 寛史さん

- <東京納税貯蓄組合連合会会長賞>
「祖母を通して税を考える」
田無第一中3年・鈴木 文子さん
- <多摩武蔵納税貯蓄組合連合会会長賞>
「今の世の中にとっての税」
田無第二中3年・作本 美秋さん
- <多摩武蔵納税貯蓄組合連合会優秀賞>
「税金と私たち」
田無第三中3年・宮本 紗織さん
- 「税金と私達の生活」
ひばりが丘中3年・田中 佳琳さん
- <社団法人東村山青色申告会会長賞>
「もしも税がなかったら」
田無第二中3年・山 亜実さん
- <社団法人東村山法人会会長賞>
「税金の大切さ」
青嵐中3年・風見 拓人さん
- <東京税理士会東村山支部支部長賞>
「税金のありがたさ」
柳沢中3年・小原 崇生さん



「税についての作文コンテスト」受賞者の皆さん

＊薬物乱用防止標語作品の部で、市内中学生が最優秀賞を受賞！

「薬物に 手を出す前に考えて 自分の未来 自分の命」

東京都では、毎年都内の中学生に、薬物乱用問題について関心を持ってもらうために、ポスター・標語の募集をしています。この度、今年度の応募作品標語作品の部29,059点の中から柳沢中学校2年生庄子真帆さんの作品が最優秀賞に選ばれ、表彰されました。
庄子さんの作品は、東京都が作成をする啓発用リーフレットなどに活用されます。
健康課 保（☎438 - 4021）

＊市内中学生が「全国中学生人権作文コンテスト」で入賞！

今年度、市内中学校7校494人の生徒が「全国中学生人権作文コンテスト」に参加しました。東京都内278校の中学校が参加し、36,471編の応募の中から、市内の中学生が入賞しましたので、お知らせします。
なお、多摩東人権擁護委員協議会でも「多摩東人権擁護委員協議会長賞」を選出し、市内中学生が入賞しました。
協働コミュニティ課 保（☎438 - 4046）

- 【第30回全国中学生人権作文コンテスト中央大会】
<奨励賞> 「もう、うつむかない」柳沢中3年・片山 真帆さん
- 【平成22年度全国中学生人権作文コンテスト東京都大会】
<最優秀賞> 「もう、うつむかない」柳沢中3年・片山 真帆さん
- <作文委員会賞> 「お年寄りについて」明保中3年・増田 賢志朗さん
- <多摩東人権擁護委員協議会長賞>
「高齢者に対して」田無第三中3年・三浦 菜由希さん
「なによりも大切なこと」田無第四中1年・市村 菜々子さん
「私が願うこと」田無第四中1年・横山 真琳さん



柳沢中学校3年生の片山真帆さん（中央）

あなたの声を...

寄せられた意見の概要や検討結果をお知らせします！

下記の一覧表は、市民の皆さんからお寄せいただいた意見を要約し、市の考え方をまとめたものです。全文については、市HPをご覧ください。

健康都市宣言骨子【抜粋】 健康課 保（☎438 - 4021）

【公表日】1月28日(金) 【意見募集期間】11月15日(月)～12月15日(水) 【意見件数】22件（6人）

お寄せいただいた意見	市の検討結果
生涯健康であることを目標とすることに共感します。（件数：2件）	市民意識調査では1,118人中、95.7%が生涯健康であることを望んでいます。どちらともいえないなど感じている4.3%の方も一緒に取り組み、市民共通の願いとして、実現を目指す宣言とします。
健康とは、自分の生活習慣で獲得するものであると思います。まずは食生活をただし、できる運動習慣から身に着けることが大切だと思います。規則正しい生活のリズムが生まれることが、健康の秘訣だと思います。（件数：2件）	健康的な生活習慣を身に着けることができるように、「健康把握」、「食・栄養」、「運動・スポーツ」、「こころ・休養」、「学び・創造」の5つを柱として健康づくりを推進します。
医療費の増加は避けたく保険料の上昇になっています。現在国民健康保険事業は市の一般会計より多額の支援を受けており、市民の健康増進による医療費の削減が急務です。（件数：1件）	80歳で20本以上自分の歯が有る方は、少ない方比べて医療費が20%以上低いことが調査で知られているように、健康増進は医療費の削減につながると考えています。
「こころ・休養」について、「こころ」と並称されることばは、「遊び」あるいは「ゆとり」がよいかと思えます。「休養」は「からだの休養」をイメージさせます。「こころの健康」のテーマは取り組みなければならない重要な課題となっています。休養としたのでは、焦点がボケてしまうのではないかと危惧します。（件数：1件）	こころの健康づくりについては、静的健康づくり「こころ・休養」と、動的健康づくり「学び・創造」で行動目標を分けています。休養は睡眠や心のゆとりなど、からだどここの休養を意図しており、こころの健康づくりに何れも重要と捉えています。宣言文において表現を工夫します。
保健・医療・福祉・教育の連携こそが西東京市の健康都市、財政改善の元になると思料します。（件数：1件）	当市はこれからも保健・医療・福祉・教育の分野の関係団体や地域グループとの連携を推進し、特色のある事業を進めていきます。自らの健康は自らの手でつくることが基本としますが、共助、公助により様々な分野が協働する健康都市を目指します。